

令和2年度第1回光市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和3年1月28日（木）午後1時30分～午後3時10分

2 開催場所

光市教育委員会1階ホール

3 出席者

(1) 構成員

光市長 市川 熙

光市教育委員会 教育長 伊藤 幸子

〃 教育委員 平岡 いづみ

〃 教育委員 武田 伸治

(2) 説明員

光市教育先端技術チーム 座長 奥屋 隆伸（島田小学校 校長）

〃 西村 崇志（浅江小学校 教諭）

〃 青木 英史（浅江中学校 教諭）

光市教育委員会学校教育課指導係長 加藤 剛

〃 教育総務課主査 吉本 真也

(3) 関係者

中村教育部長、升教育総務課長、河本学校教育課長、塩田学校教育課主幹、国広文化・社会教育課長兼人権教育課長、村崎体育課長、前田図書館長、清水学校給食センター所長、久岡教育総務課経理係長、桑原教育総務課主査、村上教育開発研究所主任研究員、永光教育企画担当（学校教育課）

4 傍聴者 なし

5 次 第

開 会

(1) 市長あいさつ

(2) 議 事

ア (仮称) 第2次光市教育大綱の策定について

イ 光市におけるG I G Aスクール構想の取組と展望について

閉 会

6 議事録 (要旨)

開 会

(1) 市長あいさつ

本日の会議は、2つの議題を用意しています。1番目は、令和4年度からの新しい教育大綱についてご意見を伺うこと、2番目は、光市におけるG I G Aスクール構想の取組と展望について、でございます。

私は、昨年12月議会において、選挙後初めて所信を發表しました。そこで、「ゆたかな社会」への道筋について、5つの「理想の姿」をお示しましたが、そのうちのひとつが、「未来を生きる力」でございます。本市のまちづくりの根底にある普遍の理念、「おっぴい都市宣言」は、本市の未来を担う宝を地域ぐるみで育てていくために、コミュニティ・スクールを更に進化させ、小中一貫教育の推進と、学校の在り方の検討を引き続き実施します。

また、時代が大きく変化するなかで、我が国が目指す未来社会においては、ICTの活用が日常的に必要となります。こうした社会で生き抜く力を育むため、G I G Aスクール構想や英語教育の推進に取り組んでまいります。

これらが、5つの「理想の姿」のうち、「未来を生きる力」として特に重要視しているものでございます。

本日の会議は、第一義的には、光市の教育大綱について、皆様のご意見をお伺いすることですが、2番目の議題は、光市におけるG I G Aスクール構想の取組と今後の展望について、担当課より説明をさせていただくとともに、実際に、光市が導入したi P a dを使った模擬授業など、子ども達の学習環境が大きく変わることを、皆様と共に実感してみたいと思っています。

G I G Aスクール構想については、本日出席いただいている、光市教育先端技術チームの奥屋先生をはじめ、そのメンバーの方々、教員の皆さんの研修にご協力いただいた光市教育開発研究所の村上先生、更には、学校現場において、子ども達と一緒に汗を流している先生方に、心からお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

本日の会議では、学校教育だけでなく、文化、芸術、体育などの社会教育においても、これからの社会の大きな変化の中で、私達がどのようなことを進めていかなければならないか、

このような視点で皆様方から忌憚のないご意見を伺いたいと思いますので、宜しく願います。

(2) 議 事

ア (仮称) 第2次光市教育大綱の策定について

説明者：伊藤 幸子 (教育長)

イ 光市におけるG I G Aスクール構想の取組と展望について

(ア) 文部科学省 プロモーション動画の視聴

(イ) 光市のI C T端末活用の取組状況等について

説明者：加藤 学校教育課指導係長、吉本 教育総務課主査

(ウ) i P a dを使った模擬授業

説明者：光市教育先端技術チーム

座長 奥屋 隆伸 (島田小学校 校長)

西村 崇志 (浅江小学校 教諭)

青木 英史 (浅江中学校 教諭)

(エ) オンラインを活用した島田中学校生徒との意見交換

【質疑・意見等】

(構成員)

教育大綱の素案に、「いつでも・どこでも・だれでも」学べるI C Tを活用した学習活動の充実とありますが、先ほどタブレット端末を使ってみて、誰でもが見ることが出来るというところが非常にいい部分だと感じましたので、「いつでも・どこでも・だれでも」に加えて、「だれとでも繋がることができる」という観点を加えていただきたいと思います。

「だれでも」の部分は、1人で出来るという形に受け止めてしまいがちではないでしょうか。コロナ禍で繋がりが出来なくなってくるという状況において、これがあれば「繋がることができる」というところが模擬授業でもよく分かったので、こういったところをポイントにさせていただけるといいと思います。

(構成員)

今のご意見にハッとさせられました。タブレット端末は、どうしても、一人ひとりが違う習熟度に応じた学習ができるという個別最適化というところがクローズアップされますが、今のご意見のとおり、学びのなかでは、協働学習にもタブレットは大いに生きてくると感じています。また、ご意見を参考に、検討させていただきたいと思います。

(構成員)

ふるさとを愛し豊かなこころを育む「光市民学」についてです。ちょうど、コロナが良い機会であったのではないかと思います。コロナの影響で、修学旅行を実施できなかった学校もありますが、それでも、県内を回るイベントを修学旅行の代替としたり、市内を歩くというイベントをしたりされました。これまで、近くだからあまり行かなかったところに行ってみて、子ども達にとってはとても良い勉強になったと思います。もちろん、修学旅行は今後もあってほしいと思いますが、自分たちの市のことを知るといことは非常にいいことだと感じましたので、今回やってみたことを、修学旅行の代替としてではなく、日頃の授業の一環に取り入れることができるとよいのではないのでしょうか。

(構成員)

実は、今のようなご意見は、他からもいただいております。通常では考えられなかったことを、このコロナ禍のなかで、保護者、地域の方、学校が一緒になって、子ども達のために、何とかして修学旅行の代わりにする行事をやりたいと、一生懸命アイデアを出したことが、今のご意見にあった行事に繋がったものです。これは、各地域でこのような動きがあったもので、修学旅行に劣らないくらいの感動と喜びがあったと聞いています。コロナ禍で学んだことというものも、大きかったのではないかと思います。

確かに、この行事は続けたいという率直なお気持ちは分かります。一方では、学校行事との兼ね合いをどうつけるかということもありますので、年間の限られた授業時間のなかで、どれくらいの時間を生み出されるかなど、それぞれの学校で検討していかなければならないことだろうと思います。このご意見は大変貴重なものと思いますので、今後また検討させていただきたいと思います。

(構成員)

この光市民学は、前の教育長さんの時に、私が提案したものです。光市をよく知ることが子ども達の自己肯定感の向上に繋がると思っています。体育と社会を一緒にして、ハイキングをしながら史跡などを訪れ見学するなど、様々な手法が考えられるのではないのでしょうか。私からもお願いしたいと思います。

(構成員)

コミュニティ・スクールに力を入れていただいておりますが、特にこういったICTを使ったものは、これまでは高齢の方々にとっては随分縁遠いものではなかったかと思います。子ども達が、会えなくてもコミュニケーションをとれる方法を教えることで、高齢の方々もこれを使ってみようと思うのではないのでしょうか。これまでは、実際に会って子ども達が教えてもらっていましたが、ICTを活用することで、もっと広がりができるのではないかと思います。

(構成員)

子ども達が高齢の方々に教えるということは、まさにそれが双方向のコミュニケーションなのではないかと思います。

(構成員)

私の母は遠方に住んでいるのですが、ICTを使って孫の写真を見ることができるようになっています。年を重ねていても、新しいことにチャレンジできるきっかけになっていると思います。

(構成員)

この教育大綱では、「育む」という言葉が多く使われていますが、私が子育てを始めた頃、先輩方から「育む」とか「慈しむ」という言葉から遠ざかってしまったと言われたことを覚えていますので、やはりこの言葉は非常に大切な言葉として見せていただいています。

今回特に思ったのは、子どもを育てているつもりが、自分も育てられているのだなと感じています。私は光市出身ではありませんが、だんだん光市がふるさとになってきていますので、このような教育大綱が大変ありがたく、良いものだと感じています。

(構成員)

結婚されて光市に来られることが多くおられると思いますが、そういった方々から、光市がふるさとになりつつあるということを伺うことがあります。非常にうれしいことです。これもまた、広い意味でのコミュニティ・スクールの成果になるのではないかと思います。

こうしたことから、光市民学を一般の方にも広めていくということは、非常に重要なことではないかと考えています。

(構成員)

「連携・協働で育む 光の教育」が大きなキーワードになると思います。これを、第1次の大綱から変えることなく第2次の大綱に引き継いでいくということが一つの大きなポイントです。

また、様々なことが制約されたこの度のコロナ禍の状況において、何もしないのではなく、これをどうするのかというときに、先ほどの学校行事のこともあります。学校の先生方と地域の方と保護者が知恵を出し合って、修学旅行はできなかったものの、一つのことをやり遂げたということで、これまでコミュニティ・スクールで培ってきた、学校や地域の底力を感じました。これまでの取り組みが蓄積された成果ではないかと思います。

もともと、コミュニティ・スクールでは、小さな問題であっても、その都度皆が集まって

意見を交わしあって解決策を検討してきました。実はその延長線上に、この度の新型コロナウイルスへの向き合い方があったと感じていて、何も今回が初めてのことでなく、これまでの積み重ねの上にあったものです。子ども達は、これからますます変化の激しい将来に向かって歩むこととなりますが、今回のコロナへの対応は、子ども達のこれからの生きる力を育んでいくことになるでしょうし、これまで私たちが大切にしてきた連携・協働の教育こそが、子ども達のゆたかな力を育んでいく基盤になるものと思います。

第2次光市教育大綱においても、皆様方の力をお借りしながら、力強く進めていきたいと思っておりますし、これが光市の教育であると考えています。

(構成員)

今言われたことこそが、子ども達がしなやかにこの世に生きる解決策だと思っています。

午後3時10分終了